



7月の世界需給予測報告は米国産トウモロコシと大豆の大きな供給を予想

目次:

- 2 ページ: Export Exchange 2014 会議
- 2 ページ: ウィスコンシン州のトウモロコシ
- 3 ページ: TPP オタワ会合

最

新の世界農産物需給予測 (WASDE) 報告書は米国産粗粒穀物、特にトウモロコシと大豆の旺盛な供給を示しています。さらに、米国内の消費が伸び悩むと考えられているために輸出向けに多くの穀物が供給されると予測しています。

トウモロコシの作付面積は下がるが単収上昇を予測

最新の WASDE 報告書では、トウモロコシの作付面積は減少していますが、作付面積は早春の播種時期の天候不順により当初の作付意向より低い数字となっています。現時点のトウモロコシ作付面積は昨年の 3,860 万ヘクタールを下回る 3,710 万ヘクタールとなっています。しかし、夏に天候が回復したことから、トウモロコシの単収はさらに上昇しています。WASDE 報告書では、現時点で 1 ヘクタールあたり 10.4 トンと予測していますが、多くの方がこれは控えめな数値であると感じています。

アメリカ穀物協会副理事長のエリック・エリクソンは「現時点では、また今年も豊作であると予想しています。多くの分析では米国農務省が WASDE 報告書で予測しているより高い単収であろうとしています。このまま進めば、米国は史上最高かそれに近い生産量になると考えられます」と述べています。

輸出向けトウモロコシ供給が大きく

単収が向上するという予測に伴い、WASDE では米国のエタノール向けと家畜飼料向け利用もかなり伸びると報告しています。その結果、2014/2015 市場年度には輸出向けに多くのトウモロコシが供給されると期待されています。

WASDE では、2014 年のトウモロコシが豊作に終わるかどうかは、今後の状況を引き続き注視するとしています。その通りで、今後の生育期の天候が最終的な生産量を決定することになるでしょう。



ソルガムの大量の生産と輸出に期待

出典: Reuters/John Sommers II

7月の WASDE 報告書では、ソルガムの作付面積は年頭の 300 万ヘクタールの予想を上回っています。ソルガムの生産量は、2013 年よりは低いものの、この作付面積の増加と 1 ヘクタールあたり 4 トンという高い単収予測から、高い生産量予測となっています。ソルガム生産量は昨年の 850 万トンから 890 万トンに増えています。昨年大きな輸出版売に基づき、WASDE は今年も輸出は全生産量の 44%に相当する 390 万トンになると予測しています。今後の生育期の天候変化によりますが、現時点の予測では米国産トウモロコシとソルガムについて強気の収穫予測となっています。◆

Export Exchange 2014 会議参加登録受付

米国粗粒穀物の輸出に焦点を当てた国際貿易カンファレンスである Export Exchange 2014 の参加登録が始まっています。この会議では海外のバイヤーが米国産穀物について、情報提供セッションや多様な講演者の講演のほか、300以上の米国のサプライヤーやエキスパートとのネットワークを得ることができます。隔年で開かれるこの会議は10月20日-22日にワシントン州シアトルのシェラトン・シアトルホテルにて開催されます。



プログラムやホテルを含む本会議に関する情報と登録は以下のサイト (<http://www.exporthexchange.org>) にてご覧いただくことができます。◆

ウィスコンシン州ではトウモロコシが 良好に生育

ウィスコンシン州では生育初期に、米国トウモロコシ主要生産州の中で最悪の部類に属する低温で湿潤な天候と直面しました。夏も平年より低温かつ湿潤で始まりましたが、最近の数週間では天候も回復しています。

米国農務省のウィスコンシン州作物生育状況報告書によると、ウィスコンシン州のトウモロコシの76%は「良い」か「とても良い」とされており、州内の22%でシルキングしています。降雨に恵まれたおかげで土壌水分も高くなっています。



出典: Reuters/Mike Blake

しかし、雨は農場での作業に適した日が少なくなることも意味しています。そのような日は、7月21日の週には昨年の同州での6.4日と比較して5.7日となっています。

ウィスコンシン州南西部の農家、デービッド・アダムス氏によると、今年のトウモロコシは生育過程の幅が広がっていることが大きな特徴であるということです。

「今年の生育期で平年と違うことは、私の農場でトウモロコシの生育段階のばらつきが大きいことです。膝丈から出穂期まですべての段階のトウモロコシが見られます」とアダムス氏は述べています。

アダムス氏によれば、まだ生育期の時間がかなり残っているため、このばらつきは大きな問題にはならないと予想しています。

厳しい生育初期でしたが、ウィスコンシン州のトウモロコシは順調です。7月の天候回復はトウモロコシの生育が進展して他地域に追いつくことを意味しています。全体的には、現在見られている問題は海外バイヤーが米国産トウモロコシに期待する高品質には影響を与えないでしょう◆

カナダのオタワにおける TPP 交渉



加 12 か国の TPP 首席交渉官が 7 月にカナダ、オンタリオ州のオタワでの会合に参加し交渉を進めました。TPP はアジア太平洋の地域のオーストラリア、ブルネイ、カナダ、チリ、マレーシア、メキシコ、ニュージーランド、ペルー、シンガポール、ベトナム、米国と日本の間の将来の自由貿易協定です。この協定により、関税の撤廃や軽減のほか、貿易品、サービス、農産物の貿易障壁を取り除くほか、海外直接投資や関連の経済活動のためのルール構築を目指しています。

オタワ会合の目標

これまでの会合で参加国は、いくつかの争点について直近に開かれる閣僚級会合の前に解決すべく協議してきました。

多くの参加国がオタワ会合において、基本合意に向けた最終協議に向けて前進したいとしてきました。米国のバラク・オバマ大統領は、11 月 10 日の APEC フォーラム前に基本合意がされることを強く望んでいるという意思を、オタワ会合前に公の場で明らかにしました。

これらのことは、今年末までに基本合意が得られるのではないかと、参加国が持ち続けている期待の反映の現れです。

進歩は見られたが合意はさらに先に

オタワでは、交渉官らは強制労働による製品の輸出入をこの協定の一環として禁止するべきであるとの合意に達しました。また、輸入製品の検疫と安全性についての合意も得られました。

いくつかの問題点が未解決のまま残っています。たとえば、国有企業の改革、知的財産権の問題や環境問題です。交渉官によるフォローアップ会合の日程はまだ決まっていません。日本の鶴岡交渉官はロイターに対して、いくつかの課題について十分な進展が見られない現在、閣僚級会議を開催するには早すぎると述べています。

オタワでの TPP 会合での進展は見られましたが、基本合意に至るまでにはいくつかの点を解決する必要があります。この目標を達成するためには、市場開放、特にコメ、麦、砂糖、食肉、乳製品といった重要品目の取り扱いに関する日米での協議をはじめとする、個別の課題についての協議を通じて交渉が継続して行われます。このような対話は、将来の会合における、すべての TPP 参加国での集中的な関税交渉の下地になります。このような過程を経ることによって、参加国は 2014 年末までには合意を形成したいとしています。◆



2014 年 2 月 22 日にシンガポールで開催された TPP 閣僚級会合
出典: AFP/Roslan Rahman